

森の通信

Museum and Cultural Institutions of Miyazaki Prefecture

宮崎県
総合博物館だより

第8号

発行日/平成元年9月12日

発行/宮崎県総合博物館

〒880 宮崎市神宮2丁目4番4号

TEL (0985) 24-2071

襦うちかけ



金糸と銀糸があやしく光り、調和のとれた織込みの緊張が見る人の目に休息を与えない。

この襦（うちかけ）のもつ不思議な絢爛さは襦以上に私たちの目をかがやかせる。人の業の限界とも思える糸と糸の交錯が、美しさの重さと永遠の透明な美学を含有している。その金と銀の糸は自らの才能で牡丹の華を咲かせて形づくり、満開の瞬間をとどめている。その瞬間の開花をみごとに支えている唐獅子模様の動きは、この襦という衣装そのものの全形の均衡を引き受けた存在として主張されている。

衣装美術は、江戸時代の尾形光琳などがよく

知られているが、京友禅などとはちがいこの様な織込みの豪華絢爛な衣装は、本県ではかい間見ることはできない。この襦は、本館に収蔵する衣装の唯一のもので、佐土原歌舞伎に使用された襦である。江戸末期から明治、大正時代にとどくものともいわれている。当時、佐土原歌舞伎で一座を張って女形を得意とした嵐富三郎一座のものであったのか、そのルーツは未だ判っていない。

いずれにせよ、いま静かな研究として大学の演劇研究家の間で注目をあつめている逸品の一つなのである。
(宗像)

炊事用具(西都、米良地方)



(西都原資料館)

ひんやりとした土間の一角に台所が見えます。みなさんは、台所とか炊事用具という言葉からどんなことを想像されますか。

あかりとりの窓からさし込む先にうつし出される流し、その横に置かれた水ためのハンズ、そっと添えられたヒシヤク。まきの燃えるカマド。煙立つ台所には、人々と共に生きてきた炊事用具がみられます。

西米良地方では、ずっと以前には、鉄鍋でごはんを炊いていました。米は少なく、ムギやアワ、ヒエなどの穀類が多かったようです。水を多めに入れて炊き、途中でウヅミを流して炊く「湯とり」の炊き方が適していたからです。

釜は、はじめは、お湯をわかす器でした。お米が普及するにつれて、ねんぴのむだと煤を防ぐように改良された鉄の羽釜が用いられるようになりました。鍋と釜の用途がこんなにかわってきたのもおもしろい事実です。炊事用具は、米、ムギ、アワ、ヒエ、甘藷などの主食を煮炊きする用具です。鍋や釜の外に、蒸籠、炭などもあります。煮炊きの方法として、蒸籠というむし器を工夫した人々は、団子、あくまき、赤飯、みそ用大豆などを蒸して、その味を楽しみました。

菜の水切り用の笊、食器をふせた茶わんメゴ、ダゴジュルスクイ……。それらをみていると、竹の紋様やシダの曲線の美しさ、手づくりの温かさと共に、用具を大切に使った人々の心が伝わってきます。むかしを語る台所や炊事用具、みなさんの近くにもありませんか。(那賀)

森のゼミナール (資料紹介)

化物婚礼絵巻



この絵巻は嘉永3年に描かれたもので巾35cm長さ13m余におよび、擬人化された化物達が嫁とりから子どもの宮参りまでを当時の風俗で表したものです。

巻頭には狐の嫁入りや雪女・お岩・皿屋敷等のことにふれた化物婚礼の序があり、序の終わりに「嘉永三ツのとし西の初陽路の穴住述」と記してあります。おそらく貉の穴住氏が描いたもの(巻末尾に落款あり)と思われますが、現在作者を確認するまでには至っておりません。内

容は嫁方掣方への婚姻の申入れから始まり、茶店での見合い・衣装の仕立て・嫁入り行列・固めの盃・祝膳・安産・宮参り等で、最後は朝日が出て化物達があわてて退散するという構成になっています。江戸末期は化物をはじめ怪奇な絵が流行したようで北斎漫画や地獄図等多く描かれています。なお本資料と同じ絵巻は八代市の松井家にも所蔵されており、他にも同様なものが存在することが確認されています。

(前田)

にぎわった自然観察会



いこいの広場周辺で行われた自然観察会

平成元年度の自然観察会がこのほど行われました。1回目は7月30日、高原町皇子原のいこいの広場が会場です。ここは霧島連山の中でも特に雄大な高千穂の峰の麓で、眼下には狭野杉を見おろす素晴らしい環境のところです。ここ

では昆虫班2班(40名)、植物班2班(40名)、鳥班1班(20名)の参加者を募ったところ、定員を大幅に超える申込みがあり、講師を増やすなどして定員増もはかりましたが、それでも希望者全員を受け入れることはできませんでした。当日はあいにくの雨模様でしたが、133名の参加があり、にぎわいのうちに行われました。ここにはハルニレの群落があり、運よくクワガタムシをつかまえた子供も何人かいて、大喜びの様子でした。午後はレストハウスの和室を借りて、標本の作り方などの学習会がありました。今回は初めてでしたが、親子で行う観察会としました。いっしょに虫をつかまえたり、植物を採集したり、弁当を食べたりで楽しい観察会となりました。

2回目は8月6日、宮崎市の宮崎神宮内が会場です。ここは植物班と昆虫班だけでしたが、ここでも希望者が多数のため、8月8日に臨時の観察会を行うことになりました。両日の参加者の合計は179名で、1回目、2回目ともににぎわった今年の観察会でした。(斉藤)

森の学習会に参加してみませんか!!



新富町七又木地区遺跡(弥生時代後期)

本年度は、博物館公開講座「森の学習会」を12回開講します。この講座は、県民の方々の文化活動の広がりに応じて多くの学習の場をつくる目的で、県教育委員会の生涯学習広域事業の

一環として実施しています。



歴史・考古・民俗・自然及び美術の広い分野に及び、私たちが県内で生活していて、意外と知らない、おや、こんなこともあったのかという内容を含む興味のある講座を開いています。

今までに6回開講し、県北、県南から多くの方々の参加がありました。残り6回の講座は次のとおりです。定員がありますので、参加御希望の方は、電話等で、担当までお問い合わせ下さい。

森の学習会(後期6回の講座)

- 10月11日(木) ある上級武士の生活(延岡藩士)
- 10月26日(木) チョウと楽しくつき合う法
- 11月16日(木) 宮崎の民家
- 11月22日(木) 遺跡を歩こう(北諸県地方の予定)
- 12月6日(木) コローの人と作品(バルビゾン派の画家)
- 1月31日(木) 古代日向の文化交流(旧石器時代より)

(田中)

	9 月	10 月	11 月
自然史	いろいろな鉱物	22日	24日 白岩山の植物 
考古	同 范 鏡	15日	17日 よそから来た土器Ⅱ(縄文)
歴史	昔の衣装	10日	12日 ある上級武士の生活
民俗	狩猟用具	22日	25日 炊事・調理用具 
美術	塩月桃雨展	24日	24日 5日 宮日総合美術展
埋蔵文化財センター	17日	丸野第2遺跡(田野町)	
西都原資料館	元地原地下式墳墓群(西都市)		8日

炊事用具(西都・米良地方)

森のコンサート・森の名園座……% マンドリンの夕べ, % 乱

森の学習会………% ある上級武士の生活, % チョウと楽しくつき合う法, % 宮崎の民家,
% 遺跡を歩こう

埋蔵文化財センター……% 遺跡をたずねて(映写会, 毎月第4土曜日), % 第5回施設公開
普及活動………% ~% 小・中学校児童・生徒の採集作品展

作品受付期間 10月23日(月)~11月8日(木)

その他………% 民衆芸能鑑賞会



特別展
開催迫る!!

銀灰色の詩情の輝き
バルビゾン派の巨星 コロケ展
11月23日(木)~12月24日(日)